

再評価時再評価結果(令和元年度)

担当課 : 徳島県砂防防災課

担当課長名 : 山名 剛

事業の概要

事業名	通常砂防事業	事業区分	通常砂防事業	事業主体	徳島県
事業箇所	徳島県名東郡佐那河内村中辺	箇所名	高森東谷		
事業概要	砂防堰堤1基(H=8.5m L=36.9m V=955m ³), 溪流保全工 L=18.0m				
事業の目的・必要性	本溪流の上流部は荒廃が進行しており、出水時に土石流が発生すると下流の人家や道路・小学校等に甚大な被害を及ぼす恐れがある。 当地区内には、人家17戸や避難所である小中学校・緊急輸送路である国道等があり、地域住民の人命や財産を守るため、平成24年度より通常砂防事業に着手した。				
総事業費	300 百万円		進捗率	22%	



事業評価結果

事業全体の投資効率性	基準年度	B/C	残事業B/C	総費用	総便益
	令和元年度	19.9	24.6	3.2億円 用地費・工事費 等	63.1億円 人家17戸、道路、小学校等
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・保全対象の人家17戸とその住民の人命と財産を保全する。(一般資産被害軽減効果・人的被害軽減効果) ・避難所である小学校、集会所を保全し、地域の防災力の向上を図る。 				
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査を行い、調査結果の公表を実施している ・地元説明会を行い、土砂法に基づく指定を実施している。 				
社会経済情勢等の変化	H30年7月豪雨等により土砂災害に対する防災意識が一層高まっている中、当事業の実施においては土砂災害に対して地域の安全や避難所を確保しながら、土地利用や保全対象に影響を与えることなく、防災面の向上に寄与している。				
事業の進捗状況	これまでに地形測量・詳細設計を実施し、用地測量を実施中である。 現在の進捗率は事業費ベースで22%である。				
感度分析	感度分析の結果においても事業の効果は確保されている。 事業費+10%:18.1, 事業費-10%:22.1, 工期+10%:19.4, 工期-10%:19.2, 資産+10%:21.9, 資産-10%:17.9 残事業費+10%:22.4, 残事業費-10%:27.4, 残工期+10%:23.9, 残工期-10%:23.6, 残資産+10%:27.1, 残資産-10%:22.2				
事業進捗の見込み	令和5年度の完成を目指し、事業進捗を図る。				
対応方針(案)	継続				
対応方針理由	地元からの要望も高く、事業進捗が見込めることから総合的に判断した。				

※総費用、総便益は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

継続の理由

想定される被害や社会的影響も大きく、費用対便益は19.9と事業の効果は高い
工事中進入路計画について用地関係者から同意に時間を要したが、用地取得準備も進めており、事業進捗を見込める。
これらの状況を総合的に判断し、事業を継続する。

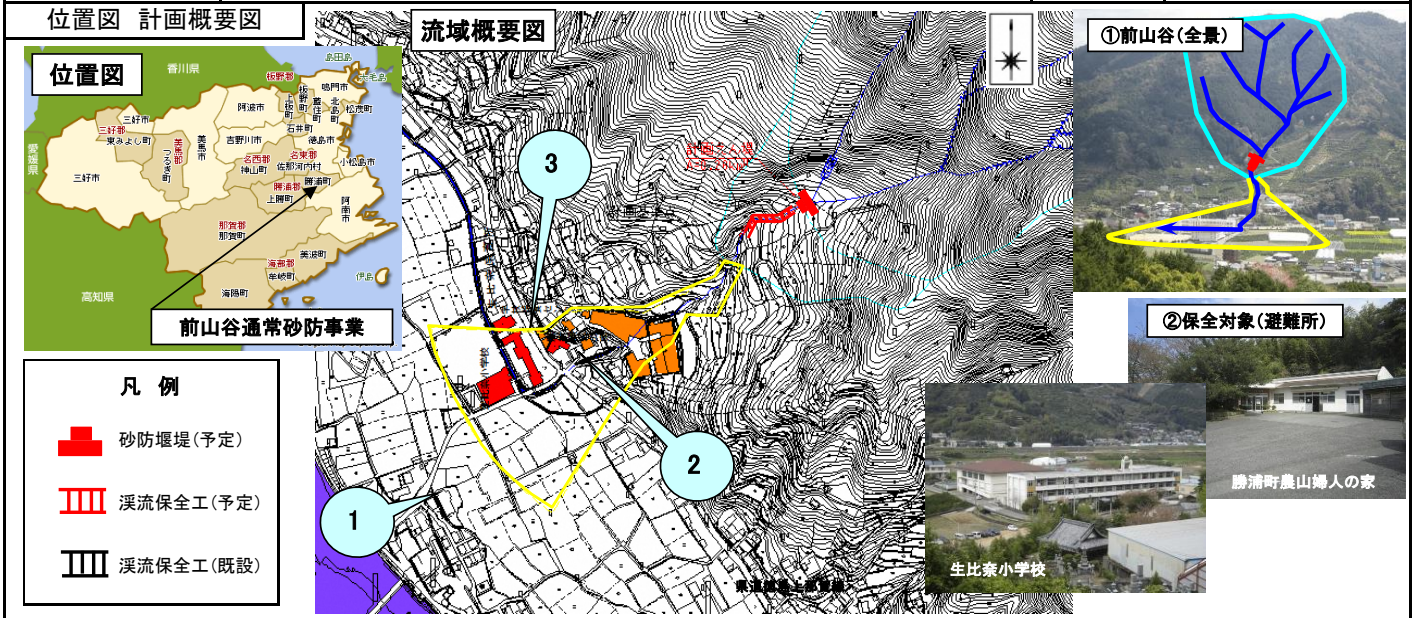
再評価時再評価結果(令和元年度)

担当課 : 徳島県砂防防災課

担当課長名 : 山名 剛

事業の概要

事業名	通常砂防事業	事業区分	通常砂防事業	事業主体	徳島県
事業箇所	徳島県勝浦郡勝浦町豊田	箇所名	前山谷		
事業概要	砂防堰堤1基(H=12.0m L=87.0m V=4310m ³), 溪流保全工 L=45.9m				
事業の目的・必要性	本溪流の上流部は荒廃が進行しており、出水時に土石流が発生すると下流の人家や道路・小学校等に甚大な被害を及ぼす恐れがある。 当地区内には、人家9戸や避難所である集会所、小学校があり、地域住民の人命や財産を守るため、平成26年度より通常砂防事業に着手した。				
総事業費	300 百万円		進捗率	25%	



事業評価結果

事業全体の投資効率性	基準年度	B/C	残事業B/C	総費用		総便益	
	令和元年度	8.0	10.2	3.2億円	用地費・工事費等	25.8億円	人家9戸、道路、小学校等
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・保全対象の人家9戸とその住民の人命と財産を保全する。(一般資産被害軽減効果・人的被害軽減効果) ・避難所である小学校、集会所を保全し、地域の防災力の向上を図る。 						
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査を行い、調査結果の公表を実施している ・地元説明会を行い、土砂法に基づく指定を実施している。 						
社会経済情勢等の変化	H30年7月豪雨等により土砂災害に対する防災意識が一層高まっている中、当事業の実施においては土砂災害に対して地域の安全や避難所を確保しながら、土地利用や保全対象に影響を与えることなく、防災面の向上に寄与している。						
事業の進捗状況	これまでに地形測量・詳細設計を実施し、現在、用地測量を実施中である。 現在の進捗率は事業費ベースで25%である。						
感度分析	感度分析の結果においても事業の効果は確保されている。 事業費+10%:7.2, 事業費-10%:8.9, 工期+10%:8.0, 工期-10%:7.9, 資産+10%:8.8, 資産-10%:7.2 残事業費+10%:9.3, 残事業費-10%:11.4, 残工期+10%:10.3, 残工期-10%:10.2, 残資産+10%:11.2, 残資産-10%:9.2						
事業進捗の見込み	令和4年度の完成を目指し、事業進捗を図る。						
対応方針(案)	継続						
対応方針理由	地元からの要望も高く、事業進捗が見込めることから総合的に判断した。						

※総費用、総便益は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

継続の理由

想定される被害や社会的影響も大きく、費用対便益は8.0と事業の効果は高い
用地関係者の同意に時間を要したが、用地取得準備も進めており、事業進捗を見込める。
これらの状況を総合的に判断し、事業を継続する。

再評価【番号9】砂防防災課

前山谷
通常砂防事業

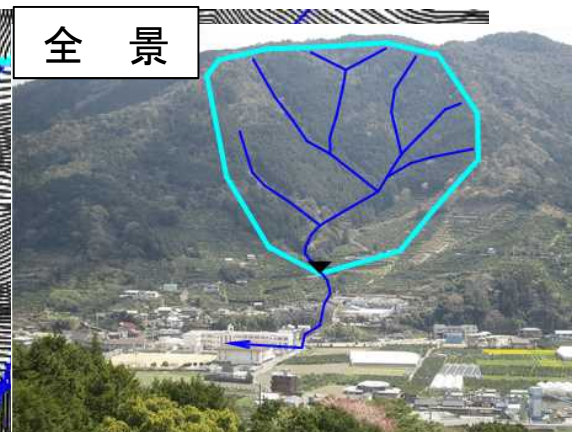
1. 事業箇所

位置図



砂防堰堤
H=12.0m
L=87.0m

全景



保全対象

生比奈小学校



保全対象

農村婦人の家



徳島上那賀線

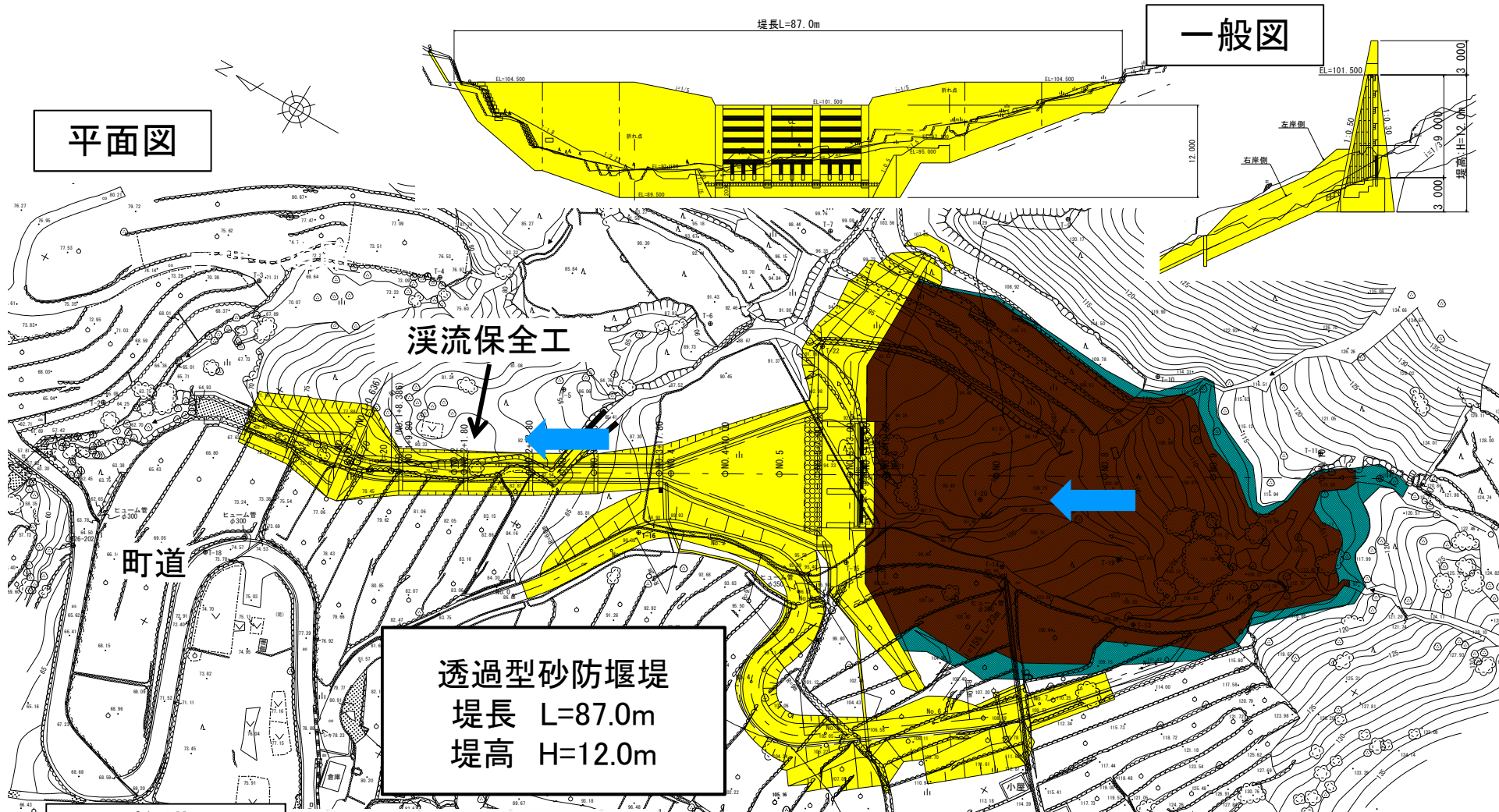
こすもす保育園

生比奈小学校

農村婦人の家

徳島上那賀線

2. 事業計画



堰堤整備位置



凡例

	施工済み(H30)
	施工予定(R1)
	施工予定(R2以降)

凡例

	計画堆砂区域
	計画高水位
	流水方向

3. 費用対効果について

費用対効果分析

総費用

C=3.2億円 (現在価値化後)

総便益

- 一般資産被害軽減
- 農産物被害軽減
- 公共土木施設被害軽減
- 公益事業施設等軽減
- 応急対策費用軽減
- 人的被害軽減
- (人的被害による)精神的被害軽減

B = 25.8億円 (現在価値化後)



B / C = 8.0

主な保全対象

保全対象

- 保全人家9戸
- 生比奈小学校
- 要配慮者利用施設
- 県道

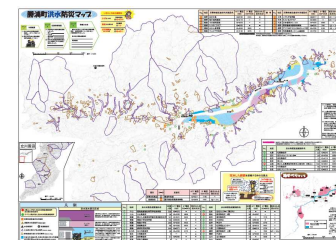


生比奈小学校

他の対策

ソフト対策

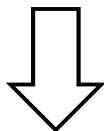
- 土砂災害警戒区域の指定
- ハザードマップの作成



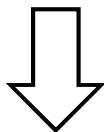
勝浦町ハザードマップ

4. 事業の経緯及び結果について

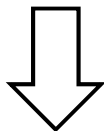
H26.4月 新規事業着手



H26.7月～ 現地測量を開始



H28.2月 地元説明会を実施

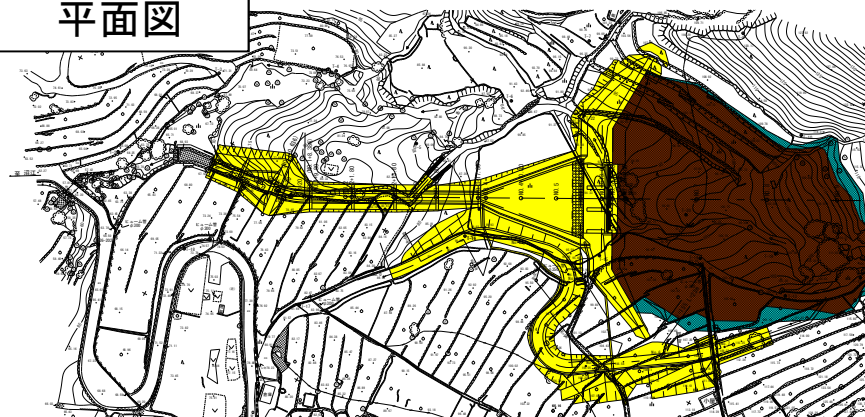


R1.8月 用地買収の手続き開始



事業継続

平面図



位置図

